



TITLE:

ジャコビーニ彗星よりの大流星雨

AUTHOR(S):

CITATION:

ジャコビーニ彗星よりの大流星雨. 天界 1933, 14(152): 70-71

ISSUE DATE:

1933-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165446>

RIGHT:

ジャコビ彗星よりの大流星雨

【聯合レニングラード11日發】 10日夜半、レニングラード上空、就中、琴座、白鳥座を中心として、突然無數の流星の雨が見られ、センセーションを起した。流星は、恰度驟雨のやうで、相當長時間、地上から觀測されたが、その間毎秒5—6個の流星が間斷なく視野に入り來り、午後11時前後は1分間300以上の流星が飛び、壯觀を呈した。この、時ならぬ珍現象は、天文學者も全く豫想しなかつたところで、ブルコヴォ天文臺は早速特別觀測を行ふことゝなつた。なほ、今回の流星は、1900年イタリイの天文學者ジャコビ氏が發見した彗星と同軌道のものと見られてゐる。

上記の如き外國電報が去る十月13—14の新聞に現はれて、吾人を一驚させた。其の後、コペンハーゲンから到着しつつある報告によれば、十月9日18時30分頃から大流星雨が現はれたらしく、キール(獨)、コペンハーゲン(丁)、ボツナン、ワルソウ、クラカウ(波)、ストラスブール(佛)、ザラコザ(西)あたりで、流星が盛んに飛び、ほど21時半まで續いたが、此の時間中に總計400以上の流星が見え、最も盛んな19時45分頃には毎秒時10個の割合であつた、輻射點は

コペンハーゲンでは	α 17 ^h 50 ^m	δ +50°
ストラスブール	17 56	+56
キール	20	
バルセロナ	18 2	+44
ボツナン	17 40	+55
ユク	17 22	+56 0'
ザラコザ	20	+52
伊 (Coceni)	17 45	+57

即ち、龍座が星(γ Draconis)附近である。キールの H. Kobold 氏や、ワルソウの Kamienski 氏や、ララカウの Banachiewicz 氏等は、いち速く此れがジャコビ彗星の軌道を運行する流星群であることを發表してゐる。—— こんな事情だから、十月10日にもロシアのレニングラードで見えたとなると、日本でも十月10日の夜には大流星雨が見えた筈である。此れを見た人が無かつたとして見ると、天氣が一般に悪かつたものか、否か? とにかく、惜しいこと

であつた。

此の流星雨の軌道要素は

天 體	近日點引數 ω	昇交點黃經 Ω	軌道面傾斜 i	近日點距離 q	計 算 者
流星輻射點より計算	185°42'	196° 0'	35°30'	0.9960	Koebeke
ク	171 42	196 3	37 5	0.9929	Arend
1857 IV 彗星	180 58	200 49	32 46	0.7468	AN. 49
ク	175 49	196 3	27 4	0.9972	Comas Sola
Giacobini 彗星1900 III	171 7	196 43	29 51	0.9319	VJS 43
Zinner 彗星1913 V	171 30	195 52	30 44	0.9759	AN. 196
Schwassmann 彗星1926 VI	171 44	195 56	30 43	0.9933	HBAA('26)
Schorr 彗星1933c	171 45	196 3	30 40	0.9997	

ジャコビニ・チンナノの彗星と関連する流星は、吾人に全く新しいものではない。天界第133號の觀測部報告(第192頁)にある通り、札幌の下保氏は1931年十月十日の夜に龍座から現はれた流星を5個見てゐる。

ジャコビニ・チンナノ彗星は今年四月23日獨國ベルゲドルフ天文臺長 R. Schorr 氏によつて發見され、七月6日に近日點を通過したものであつた。〔天界第149號第332頁〕

觀 測 部 變 星 課 (續き)

アルゴル星の豫報に關する訂正

變光星「アルゴル」の極小光産の豫報を本會發行の天文年鑑に年々掲載して一般の觀測者の便利を圖つて居りますが、今1933年の年鑑の第121頁にある12月の豫報は校正の誤りで、一行づゝづれて居りますかう、右記の如く訂正致します。御注意下さい。

12月	
日	時
2	1.8
4	22.7
7	19.5
10	16.3
13	13.1
16	9.9
19	6.8
22	3.6
24	0.4
27	21.2
30	18.0